

2017/9/13

世界最大級の足跡化石分析

## 巨大恐竜より歩行遅く

岡山理科大 モンゴル調査隊帰国会見

山陽社会

モンゴルでの調査成果を報告する（左から）柳沢学長、石垣教授、林昭次講師



行速度など成果を報告した。

同大によるゴビ砂漠の調査は3年目。モンゴル科学アカデミー古生物学地質学研究所と共同で7月末から約1カ月間、ゴビ砂漠南東部で化石探査や発掘、地質調査を実施した。

ていた年代が、9千万年前にさかのぼる可能性が指摘された。

調査隊を率いた石垣忍教授（古生物学）は「保存状態はピカ一。推定全長30以上に及ぶ超大型竜脚類の生態の解明につながる貴重な発見になった」と評価した。

足跡化石は大型植物食恐竜「竜脚類」のティタノサウルス類とみられ、昨年確認していた1個に隣接して出土。同一個体による4歩分の痕跡で、分析の結果、歩行速度は当初の推測より遅い時速1・6〜1・9キロ

調査ではほかに、モンゴルでは希少なハドロサウルス類の幼体全身骨格や、竜のアンキロサウルス類、竜脚類3体の部分骨格などを発掘した。

と新たに判明した。爪跡から指で地面をつかむ「グリッピング」と呼ばれる動きをしていることも分かったほか、7千万年前とみられ

会見に同席した柳沢康信学長は「今回は学生12人も参加し、教育面でも意味のある内容になった」と話した。（稲垣心也）

今夏モンゴル・ゴビ砂漠

で恐竜化石の発掘調査を行い、世界最大級の足跡化石を新たに3個発見した岡山

理科大の調査隊が12日、岡

山市北区理大町の同大で帰国会見に臨んだ。足跡から分析した巨大恐竜の歩